

## 令和5年度第3回北海道地学協働活動推進会議 会議録

1 日時 令和6年(2024年)3月22日(金) 14:00~15:00

2 方法 オンライン(Zoom)

3 出欠席

(1) 出席 青田アドバイザー、舛田アドバイザー、森アドバイザー、森野アドバイザー、清水構成員、川口構成員、服部構成員、松川構成員、本間構成員、谷構成員、  
【子ども政策局子ども政策企画課】福地課長補佐、千葉主事、  
【生涯学習推進局社会教育課】伊藤課長、五十嵐課長補佐、国枝主査、森主査、磯崎主事

(2) 欠席 藤澤構成員、池本構成員

4 議事

(1) 開会

伊藤社会教育課長から開会の挨拶

(2) 報告：令和5年度の地学協働について

道教委の地学協働の取組について、下記のとおり各担当から説明した。

- ・北海道 CLASS プロジェクト (国枝主査)
- ・北海道地学協働プロジェクトチーム (森主査)
- ・北海道地学協働アワード 2023 (森主査)
- ・地域と学校の連携推進協議会 (横地主査)
- ・放課後活動推進協議会 (森主査)
- ・地学協働推進アイテム (森主査)
- ・社会教育巡回訪問 (森主査)

(3) グループ協議

ブレイクアウトルームに分かれ、「各地域の地学協働の状況について」をテーマとして協議を行った。

ア ルーム A (進行：森主査)

【清水構成員、松川構成員、本間構成員、青田アドバイザー、舛田アドバイザー】  
本間構成員：学校側で運営管理ができるようにスプレッドシートを使って、教材やボランティアの人員など、学校支援に係ることについて、共有している。コーディネーターは、人に会うことが要事であると考え、積極的に学校内外の人と関わりを持っている。

松川構成員：本校に着任して1年目であるが、地域と関わりのある学校農園の運営や活用について、前任の教員から思いを継承しているため、教員が変わっても持続可能な地域学校協働活動を行うことができている。また、行政も関わりを持

ちながら、学校や地域、行政が一体となった取組を実践することができた。

清水構成員：地域学校協働活動を推進していくためには、コーディネーターの育成を行うことが必要であるため、市独自に育成を行うこととしているが、解決の難しい課題も見られている。PTAについては、コロナ禍によって規模が縮小するなどの維持することが難しい状況が続いており、活動を休止せざるを得ない団体も少なくない。また、教員の働き方改革によって、教員の業務を地域に移行する動きになってきているが、新たに地域の受け入れ体制を構築することが難しい状況も続いている。

青田アドバイザー：全道的にコロナ禍によって、地域活動が難しい状況が続いており、行き詰まりを感じている方も多い。今後は、コーディネーターをどう探すかということが重要となる。例えば、熟議やワークショップの場を設定し、その中で全体をまとめるような立場の方が出てきたら、そういった方にアプローチして一緒に活動を行うように誘うなど、前向きに仕掛けをしていくとよい。

#### イ ルームB（進行：国枝主査）

【川口構成員、服部構成員、谷構成員、森アドバイザー、森野アドバイザー】

服部構成員：登別の高校では、地元の課題探究の学習である「地元学」を進めており、行政が関わりながら地域資源を活用した学習を仕掛けた。学校と地域とつなげる役割をやっているが、生徒が地域の大人と関わることができ、地域の魅力を再確認できたという声も聞いている。また、生徒と関わる中で、生徒から市役所職員になりたいといった話を聞くこともできて、嬉しかった。

森野アドバイザー：比布町では、今年度義務教育学校が新設された。学校運営協議会は再構築し、役職のある人よりも実働で動ける人を人選した。学校に高齢者大学のお年寄りを連れて行くと、自然に交流が始まり、高齢者も喜んでいた。

川口構成員：学校運営協議会で熟議のファシリテーターを行ったり、広報誌を作成し広く町民へ普及啓発をしたり、地学協働を推進している。学校運営協議会の熟議では、地域の方から意見は出るが、なかなか活動につながらないので、うまく循環させていきたい。広報誌には、熟議の内容や活動が一体となった取組となっていることについて記載するなど、普及・啓発を工夫している。また、地域の若い世代は、地元への愛着心が希薄になっている様子があることから、青年教育の分野から高校生を巻き込んで地域づくりを展開していきたい。

谷構成員：小中学校と連携をとっているが、高校はもっと地域に開かれることが必要。来年度、自分が留萌小の学校運営協議会に保護者として関わることになるが、何をどうすればよいのか分からない人がいる。初めての方のように学校運営協議会を説明すればよいのか。

川口構成員：学校運営協議会は、「あなたの住んでいるまちの子どもたちにどん

な大人になってほしいのか」ということを話し合う場なので、普段の子どもたちの様子などを話すことができるとよいと思う。

(3) 全体交流

ルームAの協議内容については、森主査から、ルームBについては、国枝主査から説明を行った。

(4) 意見

本間構成員：来年度から道教委が全道における地域コーディネーターの研修を行うということで、大変嬉しく思っている。

青田アドバイザー：北海道 MA+CH プロジェクトについて、詳しく教えて欲しい。

国枝主査：ポンチ絵などは情報提供することができるが、指定校の選定を現在進行しているので、年度明けに詳しい情報をお伝えすることになる。本事業は、高校と市町村教育委員会と連携することで、高校生及び地域の人材育成をねらいとしており、社会教育的に意義のある事業となる。

(5) 閉会